Ⅶ. 『たちならぶ　・・・』（鈴木　朖、Le abbollire前）

たちならぶ
　花のにしきと家ごとに
かけ渡したる
　　くくり染かな

離屋 鈴木　朖

①作者　鈴木　朖（すずき あきら、1764～1837）

国学者、通称常介、字は叙清、号は離屋。

宝暦１４年（1764年）春日井郡下小田井村に生まれ、天保８年（1837年）６月６日に没す。

山田家に生まれるが、祖父の旧家を継ぎ鈴木姓を襲う。

尾張藩士であったが、学問を好み、幼くして丹羽謝庵、１２歳で市川鶴鳴に漢学を学んだが、本居宣長の国学に傾倒し、寛政４年（1792年）２９歳で入門、のち藩校明倫堂の教授となる。

墓地は東山の平和公園誓願寺にある。

原典は国学者らしく万葉仮名で書かれている。

「多知奈羅夫
　　波那能二志畿能以敝吾登爾
　　加計和多之太留
　　玖々里曽米迦奈」

発巳仲夏　　離屋　鈴木　朖

② 設置について

平成１８年１月　鈴木　活義氏　建立